

令和5年度

藍住東中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生きる力を育む教育の推進
- ・自ら学び、考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・読み書きの力の育成
- ・ICTの活用による授業力向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
高畑博紀	校長: 白井幸治 教頭: 堀岡敬二 佐藤健志 教務主任・研修主任 飯富雅彦 1年主任: 五藤友子 1年学力向上担当: 坂東 侑樹 2年主任: 新見睦恵 2年学力向上担当: 前川一光 生徒指導主事: 北原雄大 3年主任: 福田博 3年学力向上担当: 高畑博紀 人権教育主事: 平野忠義

校長
白井幸治

【各校の取組状況の把握について】

それぞれの教員が各種研修で学んだことや授業実践での成果など機会をとらえて共有することで取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○比較的落ち着いて授業に取り組むことができるので、知識、技能についてはある程度の定着が見られる。 ●学力の二極化が見られる。学習習慣が身につけていない生徒も多くTT等個別指導の充実が必要である。	・学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連させることができ、各教科間で連動させたり、生活の中で活かしたりできるようにする。 ・計算力や読解力を確かなものにする。	・ICTの活用・机間巡視等により、個別指導と一斉指導が効率よく行えるように授業を組み立てる。 ・ICTを活用し、生徒が主体的に取り組む場面、アウトプットできる場面を増やす。 ・研究授業参観やICTの活用方法の研修などの機会を作り、教員の授業力の向上に努める。	・自主学習ノートに取り組む姿勢をより主体的なものへと改善していく方法を考える。 ・小テストや振り返りから、さらなる課題に気づかせる支援をする。	・導入部分でのICTの活用は十分にできていると感じるが、個別指導と一斉指導が効率よくは行っていない。 ・生徒がアウトプットする場面は多くなかった。 ・研究授業参観が実施できなかった。	・どの学年でも、朝学習や自習時間など、共通してICTを使った学習を設定する。 ・タブレットを持ち帰り、家庭学習で活用する。 ・研究授業参観を実施する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見や教師の話を聞き、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につけようとしている。また、読書にも集中して取り組み、表現力の向上につなげようとしている。 ○学校で実施している読書週間での様子を見ていると、集中して取り組むことができている。 ●自分の考えや気持ちを表現しようとしているが、自発的に発表できる生徒は少ない。 ●情報が多くなったり、授業の内容が複雑化したりすると、既習の知識や技能を活用できず、課題の解決につなげられない生徒がいる。	・教員の発問や、授業中の課題に対し、生徒たちが意見を出し合い、他者と協力しながら合意形成ができるようになる。 ・定期テストでは思考力を問う問題(記述式等)に対して空白を減らし、自分の言葉で表現できるようにする。	・各教科で班学習やペアワークを取り入れ、タブレット・ホワイトボードなどを効果的に用いて、主体的な学びを実現するための手立てをしていく。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。 ・授業の終わりや定期テストで記述形式を出題するなどして、思考力等を高めるようにする。	・生徒一人ひとりのつまづきに応じた支援の充実を図るとともに、思考力・判断力・表現力の定着を図る。	・ICTを活用したグループワーク等に取り組む授業実践は、各教科でさらに回数が増え、思考ツールや資料を用いることで、課題解決学習を進めやすくなることができた。 ・定期テストや授業の課題では、各教科とも思考力や表現力を問う問題が出され、生徒自らの言葉で表現する場面が増えた。	・今後ICTの活用が日常化すると考えられるので、あらゆる場面で活用できるような準備を図り、教員のスキルアップ研修もさらに実施する。 ・知識の構造化を図り、それらを活用し、課題解決する授業を構築する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの生徒が休み時間に次の授業準備ができているので、チャイムと同時に授業が始められる。落ち着いた状態で学習に取り組むことができている。 ●学習に対し受け身な生徒が多く、自ら課題を見つけ目標を設定し主体的に学習に取り組める生徒は少ない。 ●難しい問題になったときに解決していこうという高い意識を持っている生徒が少なく、あきらめてしまう姿が見られる。	・授業終了後、次の授業の準備をどの生徒も確実にできるようにする。 ・各教科の学習に主体的に学習に取り組むことができる。 ・各自で学習の振り返りを行い、課題解決に向けて努力することができる。	・自主学習ノートを活用し、学習についての学習状況を把握し、主体的な学習に取り組むことができるようにする。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるように、授業の目標・まとめを提示する。 ・小テストやテストの振り返りなどを実施し、振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	・自主学習ノートに取り組む姿勢をより主体的なものへと改善していく方法を考える。 ・小テストや振り返りから、さらなる課題に気づかせる支援をする。	・ほとんどの生徒が、毎日熱心に自主学習ノートに取り組んでいる。しかし、主体的に学習に取り組める生徒の割合を上げることは今後の課題である。 ・授業ごとの目標・まとめの提示は徹底できており、生徒は何を学ぶかは自覚できて授業に臨んでいた。 ・小テストや振り返りを実施し、課題を自覚させることができた。	・授業で学んだことを、自主学習ノートで復習したり、さらに発展させたりするような具体例を教員が示し、教員も研修し、より効果的な方法を考え、実践させる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

